

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者	大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課	生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長	遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長	仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、 表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱  地山（ローム）  焼土 
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文  撚糸文 
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
36	浄禅寺跡遺跡第17地点	苗間345-2・10	877	個人住宅	10. 9. 29～10. 10. 2	試掘
37	大井氏館跡遺跡第11地点	大井951-1	200	告別式会場	10. 11. 9～10. 11. 17	試掘
38	本村遺跡第68地点	大井182	302	個人住宅	10. 4. 17～10. 4. 21	試掘
39	本村遺跡第69地点	大井苗間81街区5画地	116	個人住宅	10. 8. 24	試掘
40	本村遺跡第70地点	大井苗間130街区11画地	354	個人住宅	10. 9. 4	試掘
41	本村遺跡第71地点	大井苗間93-2街区3画地の一部	116	個人住宅	10. 10. 12	試掘
42	本村遺跡第72地点	大井苗間114街区14画地	210	アスファルト駐車場	10. 11. 12	試掘
43	本村遺跡第73地点	大井苗間115街区1画地の一部	156	個人住宅	10. 11. 12	試掘
44	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19 (11. 2. 8～11. 2. 17)	試掘後遺跡調査会で本調査
45	本村遺跡第75地点	大井苗間99街区1画地	224	個人住宅	11. 1. 18	試掘
46	東台遺跡第30地点	大井640-1	1,330	砂利敷駐車場	10. 11. 4～10. 11. 12	試掘
調 査 面 積 合 計			25,395			

第3表 1998年度大井町遺跡調査会による埋蔵文化財調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	調 査 期 間	試 掘 期 間
1	亀久保堀跡遺跡第10地点	東久保区画整理地内	258	区画整理道路	10. 5. 20～10. 5. 21	
2	亀久保堀跡遺跡第17地点	東久保区画整理地内	342	区画整理道路	10. 10. 21～10. 11. 30	
3	東久保遺跡第11地点	東久保区画整理地内	440	区画整理道路	10. 7. 14～10. 8. 6	
4	東久保遺跡第12地点	東久保区画整理地内	162	区画整理道路	11. 1. 19～11. 1. 21	
5	東久保西遺跡第3地点	東久保区画整理地内	1,452	区画整理道路	10. 6. 1～11. 1. 20	
6	東久保遺跡第9地点	亀久保279、280	2,117	共同住宅	10. 3. 1～10. 5. 18	9. 8. 18～9. 8. 28
7	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11. 2. 24～11. 3. 1	11. 2. 9～11. 2. 15
8	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	218	共同住宅兼自家用車庫	10. 9. 14～10. 10. 15	10. 9. 1～10. 9. 11
9	苗間東久保遺跡第20地点	苗間637-18・19	664	分譲住宅	10. 6. 18～10. 8. 13	10. 3. 18～10. 3. 24
10	本村遺跡第65地点	大井110-2	391	東原小学校増築工事	10. 4. 16～10. 5. 21	10. 3. 6～10. 3. 13
11	本村遺跡第74地点	大井苗間108街区2・3・6・7画地	1,495	共同住宅	11. 1. 11～11. 1. 19	11. 1. 11～11. 1. 19
調査面積合計			9,498			
東久保区画整理事業に伴う発掘調査面積合計			2,654			
第2表に掲載した地点を除いた調査面積合計			5,826			

第4表 その他の立会い調査一覧

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	処 置
1	鶴ヶ舞遺跡	鶴ヶ舞1-19-9	687	共同住宅	工事立会い
2	亀居遺跡	東久保8街区2画地	60	個人住宅	範囲外調査不要
3	東久保遺跡	東久保25街区1画地	318	共同住宅	範囲外調査不要
4	東久保南遺跡	東久保59街区7画地	52	共同住宅	富士見市で調査
5	西ノ原遺跡	大井苗間57街区5・6・7画地	301	店舗	101地点として調査済
6	中沢前遺跡	大井苗間32街区2・3画地	741	個人住宅	盛土のため調査不可
7	苗間東久保遺跡	苗間621-10	100	個人住宅	工事立会い
8	西台遺跡	大井897-14	1,000	農地改良	開発申請取り下げ

XIV 東台遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24～26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

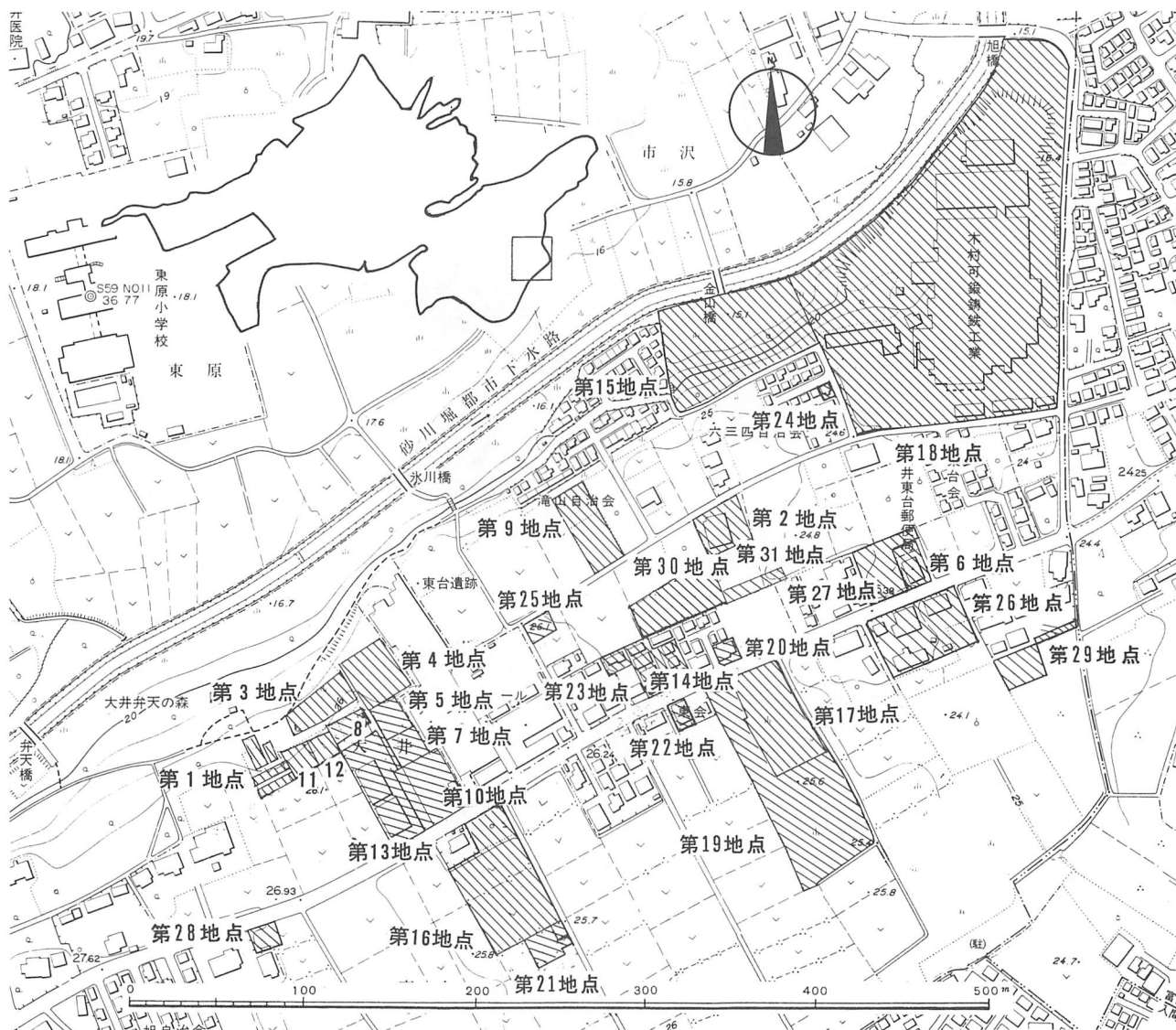
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、町内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。今のところAT層以下で石器の検出はない。

縄文時代の調査では早期1軒、後期3軒、中期102軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2000年3月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

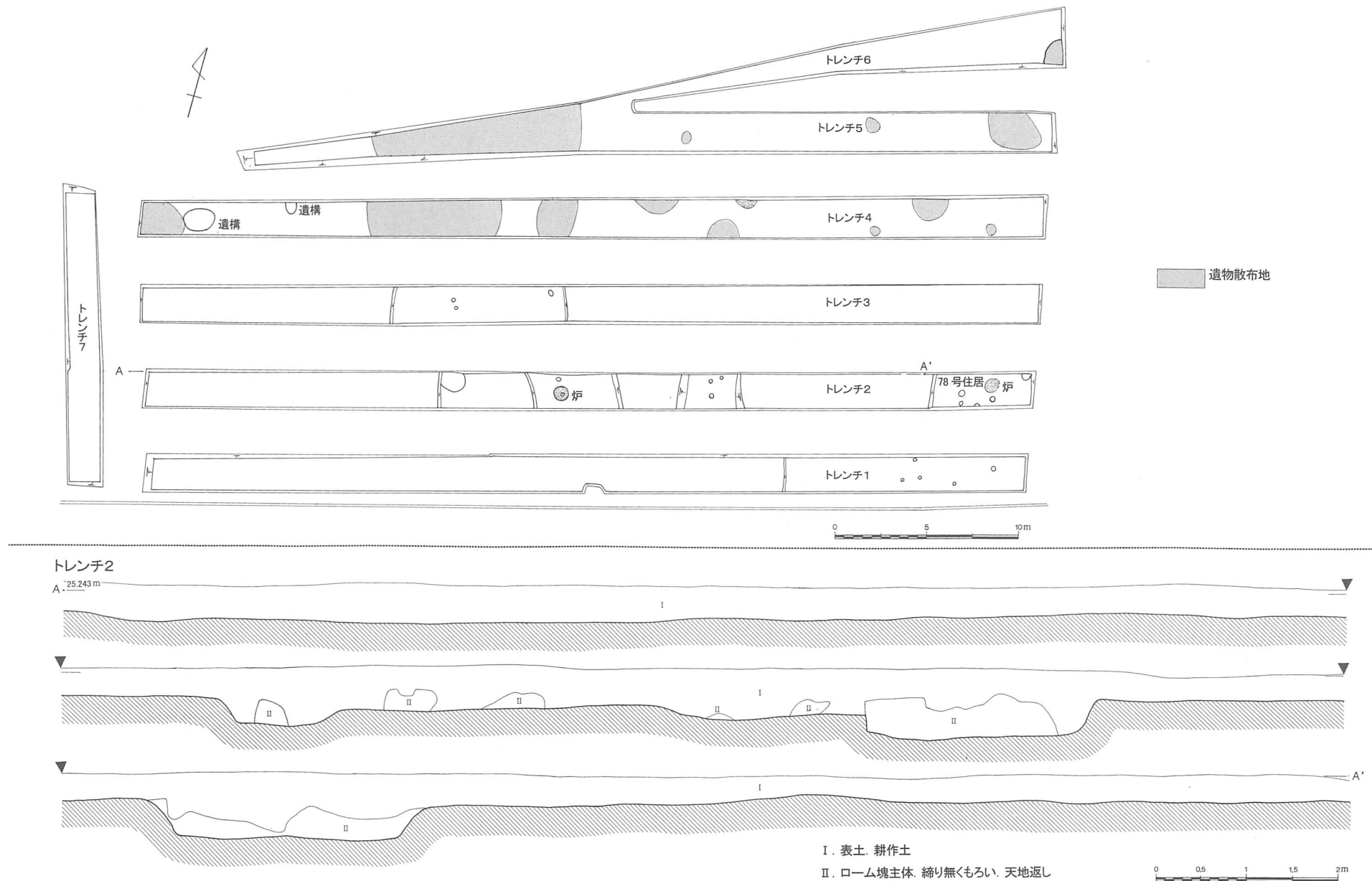
周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第129図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 130 図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/3,000)



第131図 東台遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)・土層 (1/60)

2 東台遺跡第30地点

(1) 調査の概要

調査は駐車場敷設に伴うもので、原因者より1998年10月12日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置するため申請者と協議の結果、遺構の存在確認の試掘調査を実施することとした。調査は幅約2mのトレンチを7本設定し、10月28日から重機による表土除去後、人力による調査を行なったところ調査区全域で天地返しを受けていた。しかし、土器や遺構覆土の混入個所があったため、さらに掘り下げた結果、住居跡・ピット・炉跡等の遺構を確認した。駐車場は砂利敷きであり、遺構の確認面まで40cm以上の深さがあるため、本調査は行なわず盛り土保存の措置を取る事とし、11月11日調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

① 78号住居跡

- 【位置】調査区の東、環状集落の中央近くにあたる。
- 【形状】床面にまで達する深い攪乱を受けて遺存状態は悪いが、柱穴、炉が残っていた。形状・規模ともに不明。床面、壁も残っていない。
- 【炉】石囲い炉で、西側に礫が残っていた。炉の平面形態は不整楕円形で75×56cm、深さ5cm。中央にピットがあり、19×15cm、深さ15cm。炉中央は径46cmの範囲がレンガ状に焼けて赤化している。
- 【柱穴】5本確認した。P1は主柱穴。

第42表 東台遺跡78号住居跡ピット一覧表 単位(cm)

No.	確認面径	底径	深さ	備考
1	(50)×33	6×6	88	楕円形 斜向
2	35×29	18×15	53	円形
3	27×()	20×()	19	未掘
4	40×37	21×20	14	円形
5	24×20	14×14	23	円形

【遺物出土状況】土器は床面まで達する攪乱土中からの出土であるが、炉内から3片土器が出土した。

【出土遺物】(第133～135図)

炉内出土土器 (第133図1～3)

- 1は地文条線の素口縁浅鉢の口縁部であり、口唇下に2本の沈線と連弧文をめぐらす。胎土に、輝石・角閃石粉末と橙色粒子を含み、焼成良好。
- 2は地文条線深鉢の胴上部片で、3本組沈線による連弧文を配する。3は地文条線深鉢の胴下部片で、垂下する2本の沈線を磨消して垂直懸垂文をつくる。

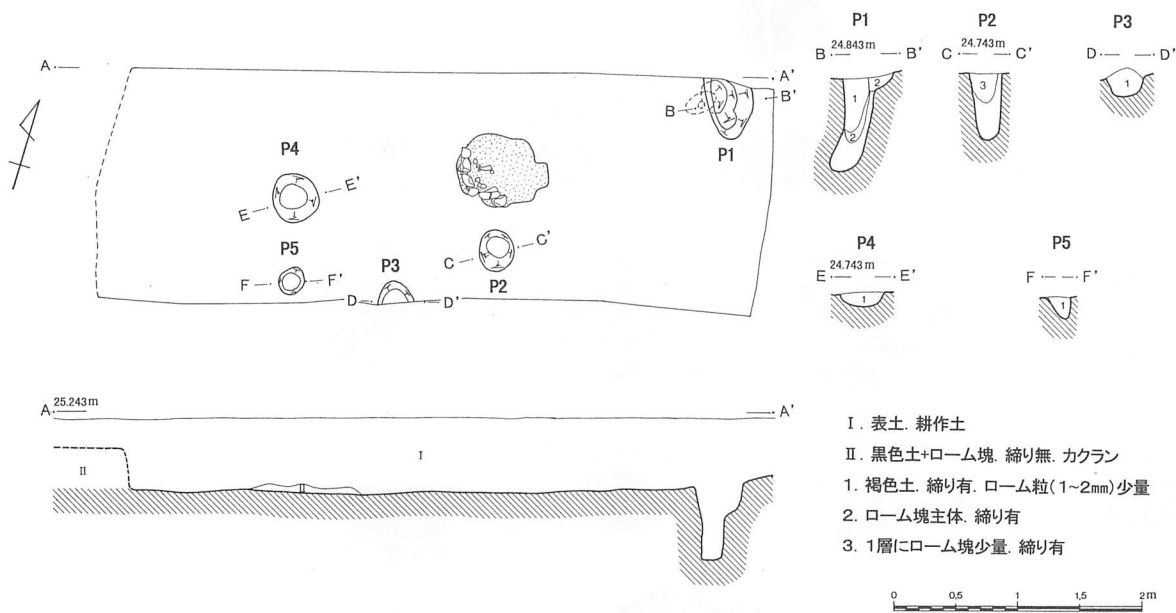
- 1～3は、加曽利EⅡ期新相である。
- 4は大形深鉢の胴上部片で、隆帯で三角形区画をつくり、隆帯上にはC字形爪形文を入れ、隆帯裾に連続爪形文を入れ端に半円形刺突を加え、区画内には三叉文を入れる。勝坂Ⅱ式新相(藤内新)といえる。5は筒形深鉢の胴部片で、沈線で縦長区画をつくり、一部に刺突を加える。勝坂Ⅲ式。
- 7は、口縁部文様帯の一部で細かい撚糸文を横位に施文する。8～11は、深く施文された地文撚糸文のみの胴部片。7～14は加曽利EⅠ古式の小片である。
- 12は、隆帯で半月状区画をつくり、地文は区画の内外ともに斜位の撚糸文である。13～24は縦位施文の撚糸文を地文とする。13は波状口縁で、14・21・23には2本の沈線間を磨消した懸垂文があるが、磨消部の幅は狭い。16は口縁下に2本の沈線をめぐらせ、その下方に連弧文を加える。17・24にも連弧文がある。
- 26～95は地文縄文の類である。26は口縁部文様帯下部から頸部無文帯にかけての、27は頸部無文帯から胴上部にかけての破片で、共に加曽利EⅠ新式であるが、27の蛇行懸垂文は沈線であり新相といえる。
- 28～38の口縁部片のうち、28～30は区画文を基調とした口縁部文様帯をもつが、31～38は口縁下に沈線をめぐらすのみで、以下は地文縄文のみである。39～41は口縁下部から体部に分けての小片で、42～45は、胴中部片で、沈線をめぐらせて、胴上部と胴下半を区分する部分である。
- 46～59は、地文縄文素口縁深鉢の口縁部と胴上部の破片である。46は口唇下に円形刺突文をめぐらせ、胴上部に連弧文を加える。49は3本組沈線による鋭さをもつ連弧文で、51～57は粗くゆるい連弧文を入れる。58と46は同巧の細片である。
- 60～80は、地文縄文で磨消懸垂文をもつ胴下半部片で、61に代表されるRL縄文、75に代表されるLR縄文とは別に、撚りのゆるい80のように地文も多彩であり、磨消幅も60のように狭いものから80のように広いものまでを含んでいる。81～94は、地文縄文の胴部片のうち、懸垂文のない部分の破片である。95は、地文縄文深鉢底部の代表で、小片は割愛した。
- 96～98は、口縁部文様帯の区画内を沈線列で埋める類で、99～101は沈線の他に楕円形刺突や円形刺突を加

えるもの。102～111は沈線を地文とする類で、103は極小深鉢で104は口唇内面にも沈線列をもつ浅鉢である。109は肋骨状に沈線を入れる曾利系のもの。

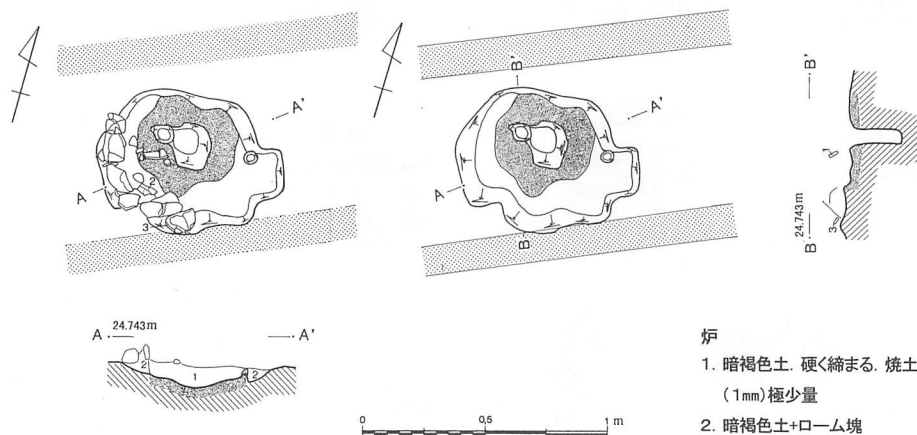
112～127は地文条線の土器片であるが、115・116は隆帯による蛇行懸垂文をもつ古相のもの。

128～143は、地文条線で連弧文をもつ破片で、口縁部3片が3様であるように、差は著しい。143は地文条線底部の代表例である。

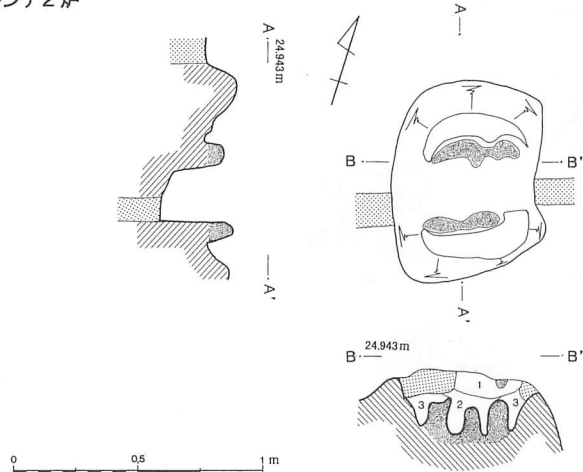
144～150は無文浅鉢の代表例で、小片18を割愛している。144には補修孔がある。151・152は縦位の弧状条



78号住居炉



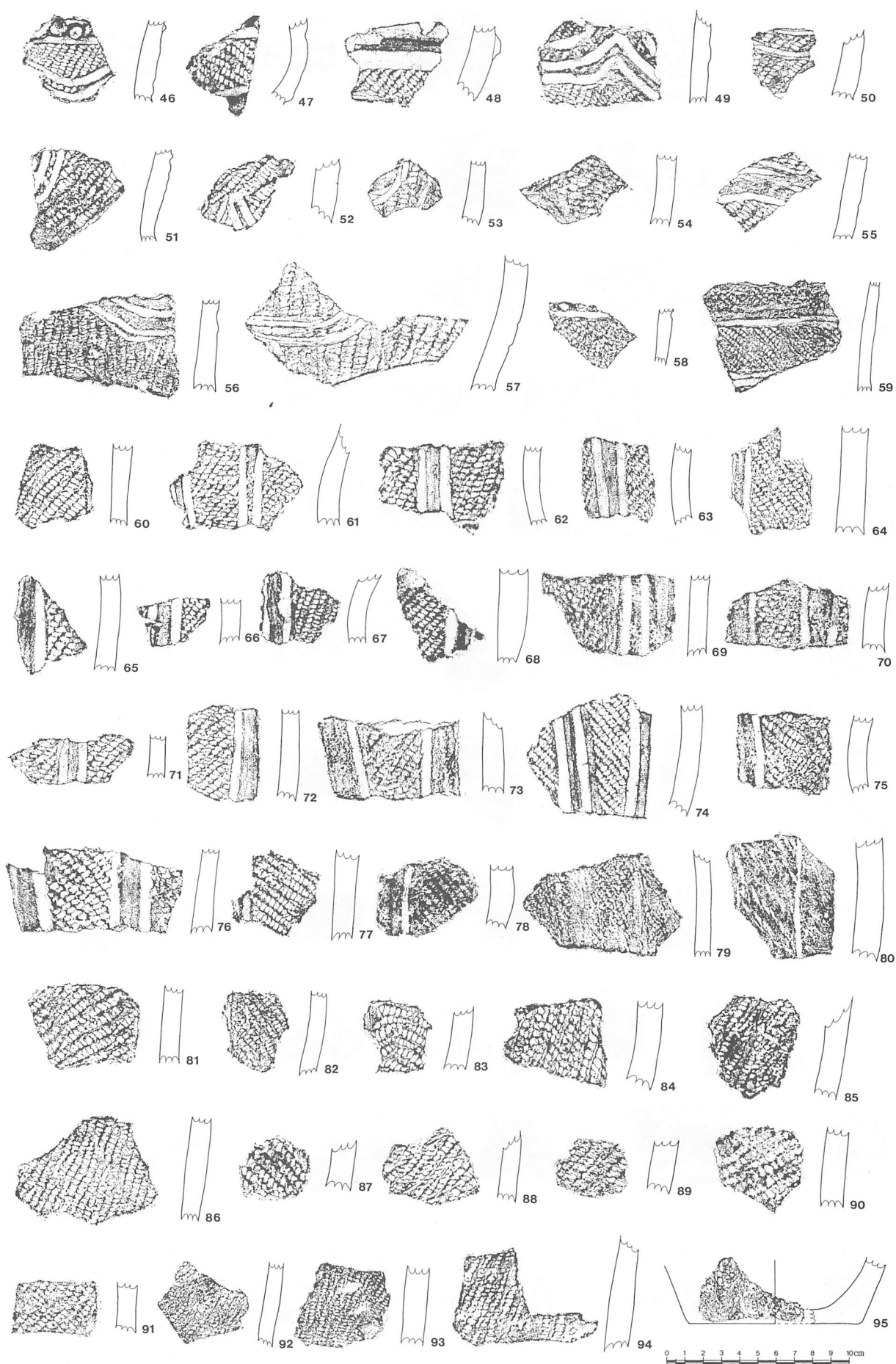
トレンチ2 炉



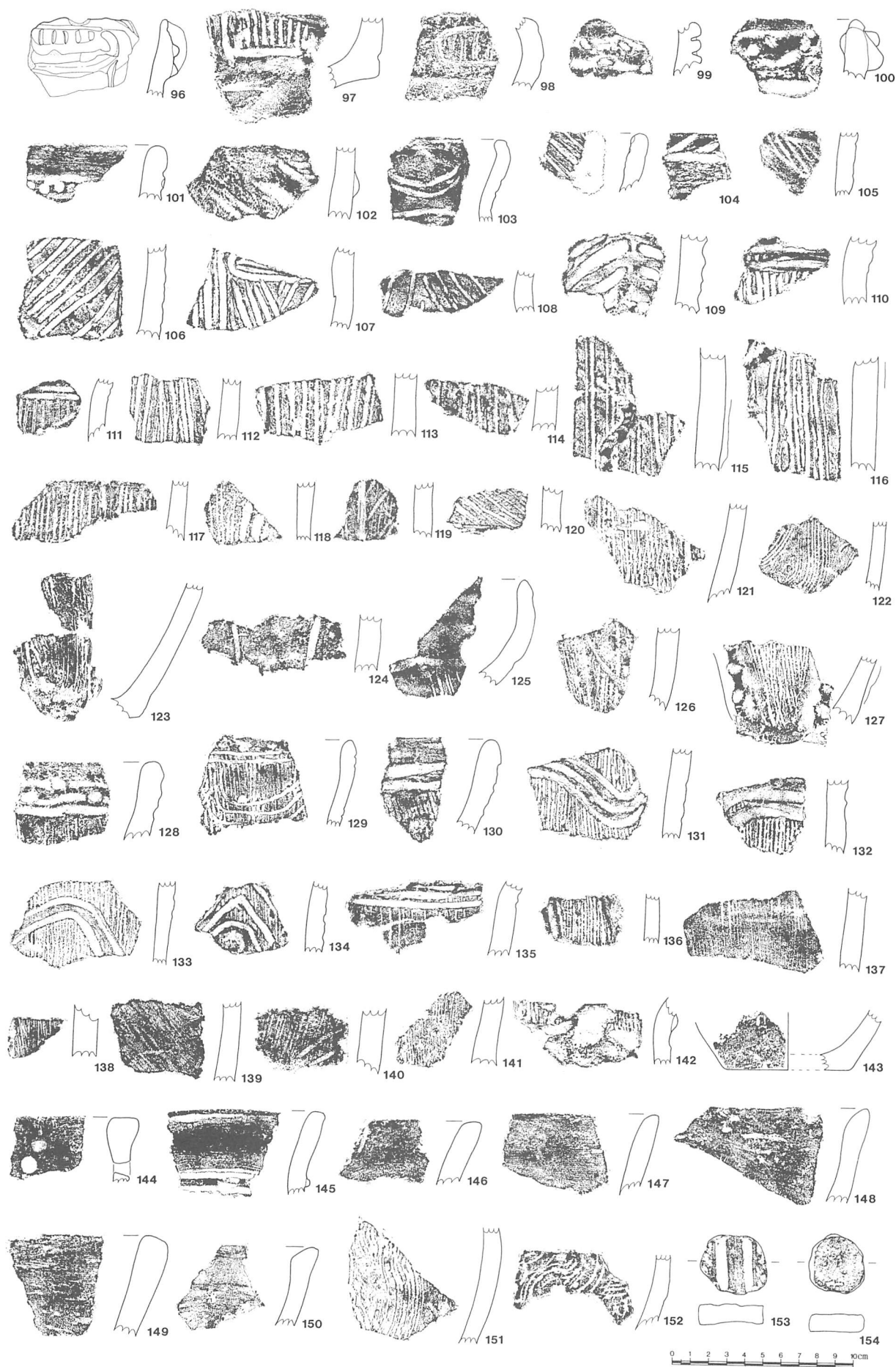
炉出土土器



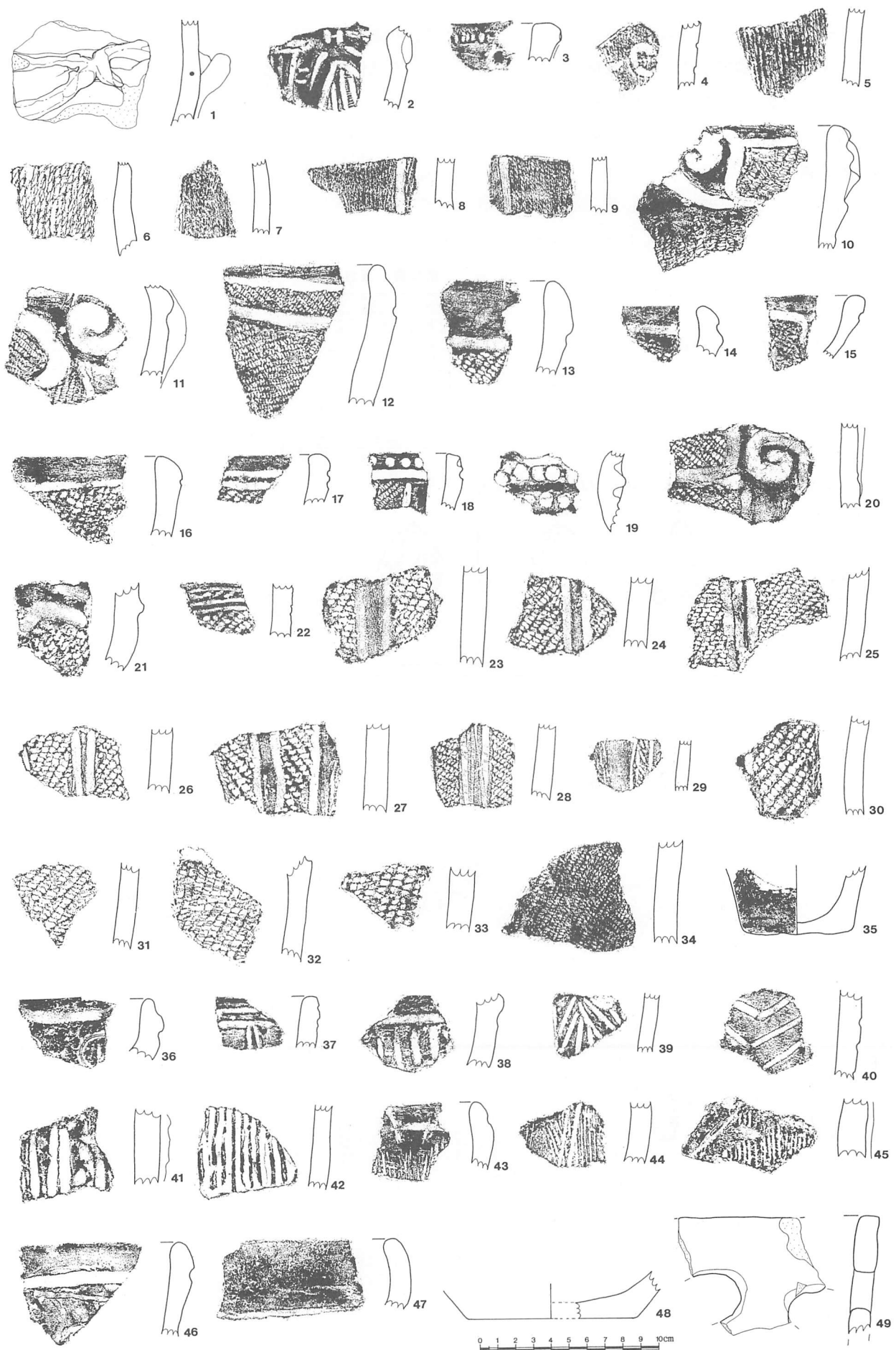
第 133 図 東台遺跡 78 号住居跡出土土器 1 (1/3)



第 134 図 東台遺跡 78 号住居跡出土土器 2 (1/3)



第 135 図 東台遺跡 78 号住居跡出土土器 3 (1/3)



第 136 図 東台遺跡第 30 地点遺構外出土土器 (1/3)

線を地文とする胴部片で加曽利EⅢ期に近いものといえる。153・154は土製円板で、側面調整は入念に行われている。153は確実に加曽利EⅡ期のものである。

【時期】 炉内土器などから加曽利EⅡ期新相。

② その他の遺構

【屋外炉】 調査区中央に炉を検出した。周りの攪乱がひどく、住居の炉かどうかは判断できなかった。

掘りこみの範囲は81×57cm、深さ17cm、炉中央は径36cmの範囲が焼けて赤化している。

【遺構外出土遺物】 (第136図)

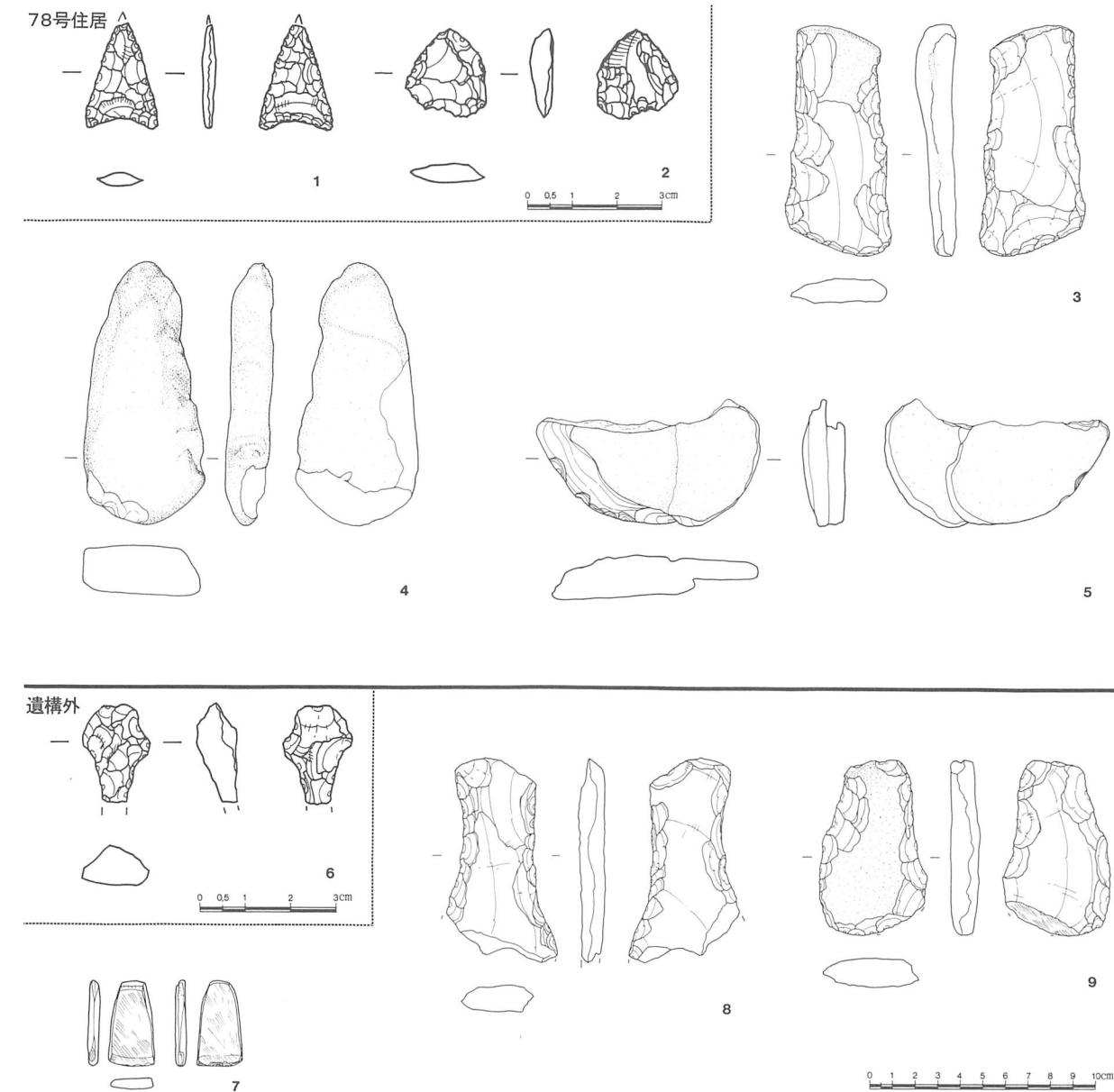
1は口縁直下の破片で、無文地に断面三角形の隆帯で半月区画をつくり、胎土に金雲母を含む阿玉台Ⅱ式。

2は、隆帯による区画沿いと区画内を沈線列で埋め隆帯裾に刺突を加える勝坂Ⅲ式。4～9は地文撚糸文

で、4は異系統、5～7は深い施文で加曽利EⅠ古式、8と9は沈線による懸垂文をもつ。10～35は地文縄文の土器で、10・11・20は区画文と渦巻文をもつ口縁部で、18・19は円形刺突文をもつがいずれも加曽利EⅡ式。36～42は沈線文。43～45は条線文を地文とする。46と47は浅鉢口縁部で5片を割愛した。49は入念な調整を加えた器台で大きい円孔が2つある。

第43表 東台遺跡78号住居跡出土石器一覧表 単位(cm・g)

No.	材質	種類	長さ	幅	厚さ	重量
1	頁岩	石鏃	2.3	1.6	0.3	0.9
2	黒曜石	石鏃・未製品	2.0	1.8	0.5	12.7
3	砂岩	打製石斧	10.2	4.5	1.6	90.2
4	砂岩	敲石	11.6	5.4	2.0	183.7
5	片岩	凹石?	5.6	9.9	1.9	89.7
6	黒曜石	石錐	2.2	1.5	0.9	1.9
7	粘板岩	磨製石斧(鑿)	3.8	2.1	0.5	7.3
8	ホルンフェルス	打製石斧	9.0	4.9	1.2	56.8
9	砂岩	打製石斧	7.7	4.8	1.3	65.4



第137図 東台遺跡78号住居跡・遺構外出土石器 (2/3・1/3)



東台遺跡 78号住居跡全景



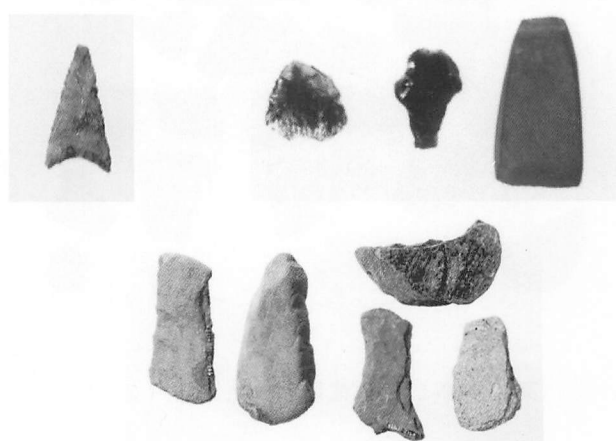
東台遺跡 78号住居跡炉



東台遺跡第30地点 炉跡



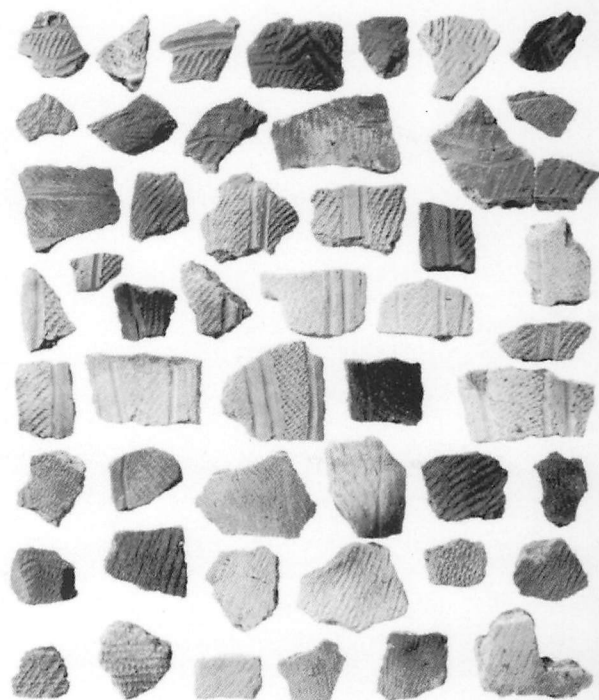
東台遺跡第30地点 調査区全景



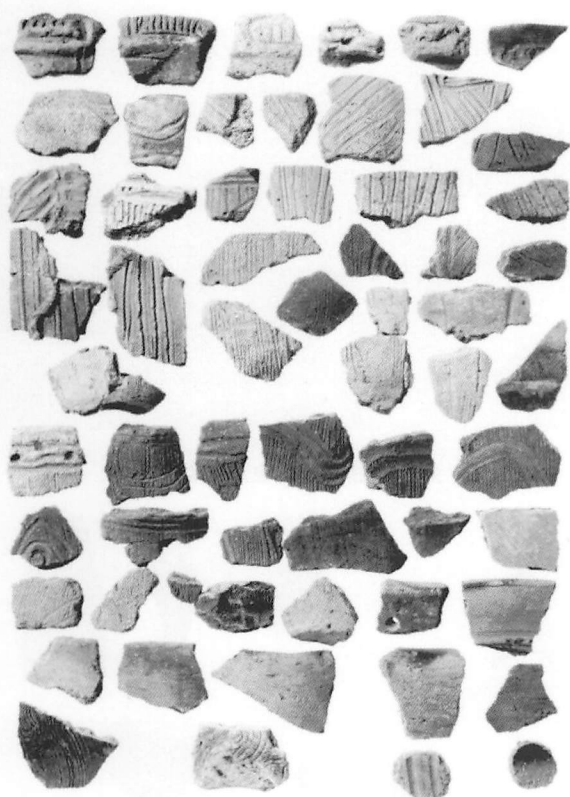
東台遺跡第30地点 出土石器



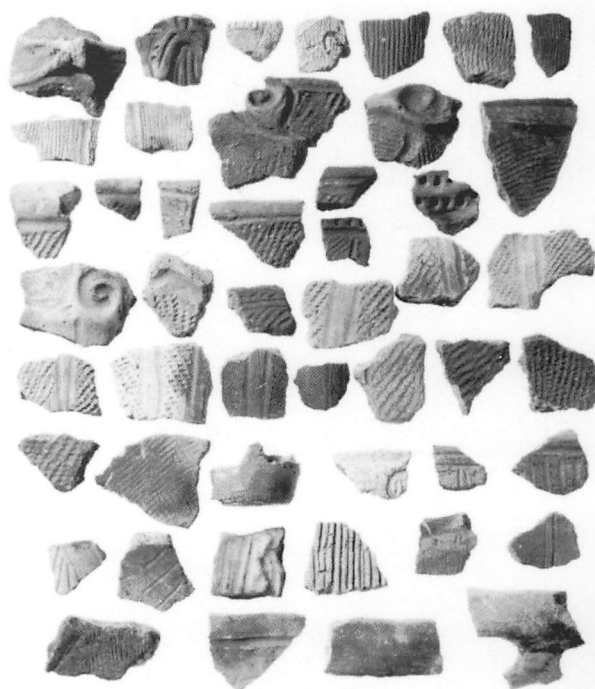
東台遺跡 78号住居跡出土土器 (1)



東台遺跡 78号住居跡出土土器 (2)



東台遺跡 78号住居跡出土土器 (3)



東台遺跡第30地点 遺構外出土土器